

公益社団法人 私立大学情報教育協会
物理学・化学・機械工学・建築学・経営工学・電気通信工学・土木工学・生物学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
開催要項

1. 開催趣旨

昨年の対話集会では、学力の3要素を高めるためにICTを活用した教育・学修方法の工夫・改善、授業科目の相互改善を促進するための仕組みとICTの活用、ICTによる外部評価モデルの必要性と仕組みについて意見交換しました。その結果、ICTを活用したアクティブ・ラーニングは進んでいますが、知識の活用や創造を目指す分野連携の取り組みは殆ど進んでいません。また、ICTを用いて授業内容を可視化し教員相互で理解し合う取り組みの必要性は認識されていますが、教学マネジメントを含めた全学的な取り組みは進んでいないことが判明しました。さらに、学修成果の質保証の取り組みとして、ICTによる外部評価モデルの新たな提案については、総論賛成の意見が多い一方、被服・美術デザイン分野では創造性の評価に適さないとの意見もあり、今後、各分野で実現に向けて詳細な議論を展開することになりました。

そこで、本年度は、3月に答申された第3期教育振興基本計画を踏まえて、問題発見・解決力を高める課題探求型のICT活用授業を中心に研究するとともに、ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善の可能性、ビデオ試問による外部評価モデル、知識の創造・実践力の向上を目指す分野横断型フォーラム授業について議論を深め、ICTを活用した授業改善の方策を探求したいと考えております。

2. 対話集会のねらい

本年度は、問題発見・解決力を高めるアクティブ・ラーニングの質向上を目指して、以下のような観点で対話集会を展開します。

- ① アクティブ・ラーニングの質向上を目指して、問題発見・解決力の向上を図るICTを活用した課題探求型授業の研究を行います。
- ② 多面的に考え、本質を見抜く能力を目指す授業モデルを研究するため、ICTを活用した分野横断的な授業のイノベーション実現に向けた課題・戦略について意見交換します。
- ③ ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善の仕組みについて、実現の可能性を探求します。
- ④ 学修成果の質保証に向けたビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題等について認識の共有を行います。

3. プログラム

- (1) 開催趣旨の説明
- (2) アクティブ・ラーニングの話題提供

※「異分野融合によるビジネスシーンを模したプロジェクト教育の紹介」

専門領域の異なる学部一年生を集め、学生が問題解決活動に取り組み、「論理的な思考」と「自ら考え行動する力の育成」を目指す演習の内容とICT環境を駆使したプロジェクト教育の今後を展望します。

金沢工業大学基礎実技教育課程主任、教授 松本 重男 氏

※「学内外の多様性を活かした考動型学びの事例紹介とICT活用による高度化」

学生の主体性を伸ばすための学びの一つとして、イノベーションアーキテクト養成プログラムによる学外企業、文理・大学の枠を越えた学生・社会人が持続可能なビジネスモデルを提案するワークショップの取り組みを紹介するとともに、ICTを活用した養成プログラム高度化の展望について提案します。

立命館大学常務理事、理工学部教授 建山 和由 氏

※「ものづくりPBLによる質保証を目指した企業との共創教育の取り組み」

企業と連携してデジタルエンジニアリングを駆使したものづくりPBLの実践とオープンイノベーションによる新たな価値創出、企業CSRに貢献した共創教育の事例について紹介します。

日本大学理工学部次長、教授 青木 義男 氏

※「大人数講義におけるタブレットを用いた双方向授業の実践」

大教室で行われる講義は一方向的な知識伝達型授業となっている例が多いが、教員と学生との双方向性を持たせるため、タブレットを用いて学生一人ひとりの考えや理解度の状況をリアルタイムで把握し、授業に反映している取り組みを紹介します。

立正大学地球環境科学部教授 島津 弘 氏

(3) 意見交流

問題発見・解決力の向上を目指した課題探求型授業におけるICT活用を中心に、考える能力を身につけるアクティブ・ラーニングの授業改善を参加者全員による意見交流を通じて、認識の共有と対応策について探求します。また、教育改善に向けて学生や地域社会などを含む多様な意見をネット上で取り入れるプラットフォームの可能性と課題、学修成果の質保証を客観的に担保するICTを活用した外部評価モデルの可能性、多面的な知識の組み合わせにより新たな知見を獲得する分野横断型のフォーラム授業について、以下のテーマで意見交流をします。

- ① 問題発見・解決力を高める課題探求型授業におけるICT活用の取り組みと課題
- ② ICTを活用した知識の創造と実践力の向上を目指す分野横断型フォーラム授業の必要性和導入の課題
- ③ ネット上で学内外の意見を取り入れたオープンな教育改善実現の可能性と課題
- ④ ビデオ試問による外部評価モデルの仕組み、実現に向けた課題・対応策

4. 参加対象者：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. 開催日時：平成30年12月26日(水) 13:30~17:00

6. 会場：法政大学(市ヶ谷田町校舎) デザイン工学部棟 5階 T511教室 東京都新宿区市谷田町2-33 地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 5番出口 徒歩5分

7. 定員：100名(先着順で受け付けます)

8. 参加費：無料

9. 参加にあたって

事前に、本協会がまとめた「大学教育への提言—未知の時代を切り拓く教育とICT活用」の1章3.(2)(③学修成果の質保証に向けた到達度の外部評価モデル：7~8ページ)に記載、2章(ICTを活用した教育改善モデルの考察：物理学分野・化学分野・機械工学分野・建築学分野・経営工学分野・電気通信工学分野・土木工学分野・生物学分野)、「私立大学教員の授業改善白書(平成28年度調査結果)」をご覧ください。

<http://www.juce.jp/LINK/teigen.html>

<http://www.juce.jp/LINK/report/hakusho2016/hakusho2016.pdf>

10. 資料について

当日、話題提供資料の縮小版を配布します。準備ができ次第、以下のURLに掲載しますので資料をご覧の上、参加ください。<http://www.juce.jp/senmon/active/>

11. その他

話題提供と意見交換の様子(意見交換は背面からの遠景)を個人情報に配慮して収録し、映像は編集後に加盟校に限定してネット上で動画配信します。また、意見交換による課題の整理は文章で本協会Webサイトに掲載する予定にしております。

12. 参加申込について

別紙の申込書に必要事項とアンケートを記入の上、FAX又はメールで12月20日(木)までにお申し込み下さい。

公益社団法人 私立大学情報教育協会
物理学・化学・機械工学・建築学・経営工学・電気通信工学・土木工学・生物学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会
参加申込書

※ 必要事項を記入の上、FAX (03-3261-5473) またはメール (bbskikai@juce.jp) にてお申し込みください。

- ・ご記入いただいた個人情報は、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。
・データベース管理作業の外部委託の際には目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意いたします。

『参加者記入欄』※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、収録ビデオ配信のご案内や今後の活動のご案内をさせていただきます。

ふりがな (_____)
氏名: _____
大学名: _____
所属・役職: _____ E-Mail: _____

アンケート 意見交流の運営に役立てるため、下記についてできるだけ記入、チェック印を付けてください

- (1) 先生のアクティブ・ラーニングの授業では、どのような能力の向上を目指していますか。(複数回答可)
知識の定着 知識の活用 知識の組み合わせ 問題発見・解決力 表現力 発想・創造力
実践力 その他(キーワードでお答え下さい _____)
- (2) 上記に回答の能力向上に向け、授業で ICT を活用していますか。
活用している 活用を考えている 活用していない
活用している場合、ICT 活用授業の内容を下欄に簡潔に紹介下さい
(_____)
- (3) 教育改善の仕組みとして、学内外の関係者を交えてネット上のプラットフォームで意見交流するニーズについて、お答え下さい。
 必要 不必要
- (4) 「必要」と答えられた先生に伺います。どのようなレベルのプラットフォームが必要とお考えですか、いずれかを選択いただき、その上で意見交流する対象者も選択してください。
 大学単独で構築 (教員 職員 学生 有識者 地域社会 企業)
 複数大学連携で構築 (教員 職員 学生 有識者 地域社会 企業)
 大学と地域社会で構築 (教員 職員 学生 有識者 企業 地域の団体)
- (5) 私情協では、学修成果の質保証に向けて、ICT を活用した外部評価モデルを提案しています。このモデルは、授業を受けた学生に対して大学外部の有識者がビデオ試問等を実施することにより、学修成果を評価するものです。このような外部評価システムのニーズについて、お答え下さい。(別紙の資料参照)
 必要 不必要
- (6) 世界・社会に通用する思考力・判断力などの向上を強化・充実するため、自大学教員による授業以外に、学内外における多分野の関係者を交えた分野横断型による授業のニーズについて、お答え下さい。
 必要 不必要 今後検討したい
- (7) (6)で「必要」と答えられた先生に伺います。多面的に考える力を訓練するため、ICT を活用して学外有識者から知見や助言の提供を受けたり、ネット上で異分野の学生がチームで問題発見・解決に向けた討論を行う課題探求型学修のニーズ及び今後の課題(例、学位プログラム・カリキュラム見直し、教員の意識改革、教員間の連携、他大学・社会との連携体制、ネット環境の整備、授業運営の支援体制等)について、お答え下さい。
 必要 不必要 今後検討したい
課題 (_____)